

## 5 キャッシュ・フロー計算書について

本市下水道事業のキャッシュ・フロー計算書の状況は、次のとおりである。(単位:千円)

	平成27年度	平成26年度	増減額
<b>1 業務活動によるキャッシュ・フロー</b>			
当年度純利益	312,419	342,236	△29,817
減価償却費	3,486,613	3,358,760	127,853
退職給付引当金の増減額(△は減少)	14,584	17,704	△3,120
賞与引当金の増減額(△は減少)	844	30,729	△29,885
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1,981	26,481	△28,462
長期前受金戻入額	△1,433,220	△ 1,394,761	△38,459
受取利息及び配当金	△27	0	△27
支払利息及び企業債取扱諸費	1,123,190	1,160,032	△36,842
固定資産除却損	20,063	52,499	△32,436
未収金の増減額(△は増加)	△25,028	345,852	△370,880
未払金の増減額(△は減少)	57,677	28,472	29,205
預り金の増減額(△は減少)	6,681	△ 10,384	17,065
小計	3,561,815	3,957,620	△395,805
利息及び配当金の受取額	27	0	27
支払利息及び企業債取扱諸費の支払額	△1,123,190	△ 1,160,032	36,842
業務活動によるキャッシュ・フロー	2,438,652	2,797,588	△358,936
<b>2 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>			
有形固定資産の取得による支出	△6,857,380	△ 5,154,924	△1,702,456
国庫補助金等による収入	2,631,670	2,322,992	308,678
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,225,710	△ 2,831,932	△1,393,778
<b>3 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>			
建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入	1,299,000	1,657,900	△358,900
その他の企業債による収入	550,000	600,000	△50,000
建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△2,918,580	△ 2,979,426	60,846
その他の企業債の償還による支出	△835,101	△ 114,550	△720,551
企業債前借による収入	1,950,000	2,040,000	△90,000
他会計からの出資による収入	415,413	214,196	201,217
財務活動によるキャッシュ・フロー	460,732	1,418,120	△957,388
資金増加額 (又は減少額)	△1,326,326	1,383,776	△2,710,102
資金期首残高	1,383,776	—	1,383,776
資金期末残高	57,450	1,383,776	△1,326,326

キャッシュ・フロー計算書では、決算対象期間における現金及び預金の増減状況が、3つの活動区分におけるキャッシュフロー(CF)で表される。

業務活動によるCFはプラスになっている。これは、主に減価償却費の額が大きいことによる。投資活動によるCFはマイナスになっている。これは、固定資産の取得に係る建設改良費の影響が大きい。財務活動によるCFはプラスになっている。これは、企業債の償還のための支出より、企業債収入が多かったためであるが、借入額は前年度から減少しているため、全体としては大きく減少している。

この結果、本年度の資金は前年度より約13億2,633万円減少し、期末の残高は約5,745万円となっている。